



認定 NPO 法人 沖縄・球美の里 NEWS LETTER 2022年9月発行

No. 11

球美の里だより

ファミリー保養実施中！

いつも球美の里をご支援いただきまして、ありがとうございます。

9月初めには台風11号が久米島を直撃し、新しく花を咲かせていたバナナやパパイヤ、月桃などが倒れてしまったことは残念ですが、幸い建物等に大きな被害はありませんでした。被害に遭われた方には、心よりお見舞い申し上げます。

1月にお届けした球美の里だより No.10 で、少人数の家族単位で参加していただくファミリー保養という新たな形で昨年末に保養を再開したことをお知らせしました。その後、沖縄県内での新型コロナ感染拡大で一時ファミリー保養も行えずにいましたが、3月からまた再開することができました。

久米島の皆さんに迷惑をかけることがないように、保養者、スタッフとも保養2週間前から検温し、直前のPCR検査で陰性を確認するなど、感染対策には十分な注意を払っています。

3月26日から8月30日まで11回にわたり、13家族46人（子ども29人、保護者17人）が4泊5日のファミリー保養を楽しみました。きれいな海と芝生の庭で思いっきり遊び、皆さん久米島を満喫してくれました。「もっと長くいたい」「久米島サイコー！ また来たい」と、何よりうれしいことばを聞くことができました。

8月までに実施されたファミリー保養のうち、7月14日から8月末までの5回の夏の保養は、ドルトムント独日協会様からのご寄付で実施できました。保養再開とともに、いち早くご支援をいただきまして、感謝申し上げます。

9月以降もファミリー保養は続けていきます。コロナの制限の中でも、より多くの方に球美の里で保養していただけるよう、今後の体制、組織運営についても、検討していきます。皆さまのご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。



畳石海岸にて 2022/8

たらちね・こども保養相談所から

東京電力・福島第一原子力発電所事故から 11 年

福島第一原子力発電所事故から 11 年。廃炉作業は、最長で 40 年などと言われていますが、残り 30 年で終わることができるのでしょうか？

いわき放射能市民測定室たらちねの活動も今年で 11 年となりました。放射能測定室として開所したたらちねですが、福島を取り巻く問題に常に向き合いながら活動が続けて行く中で、現在では放射能測定、クリニック、甲状腺検診、こころのケア、沖縄・球美の里保養と大きく 5 つの事業で展開しています。多くの場所で日常に戻りつつある福島ですが、子どもたちの遊び場である公園の測定をしてみると高濃度の放射性物質が検出され、事故当時子どもだった 6 人が東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響で甲状腺がんになったとして賠償を求める裁判を起こして、帰還困難区域の解除では「戻る 戻らない 戻れない」で心が分断され、そして昨年政府が発表した処理汚染水の海洋放出に向けて着々と事前工事が進められているなど、未だ課題は山積みです。

あるイベントに参加していた男性の発言です。「被ばくしたのは、大地や森ばかりか、俺たちの心や意識も被ばくした。除染して数値が下がったのだから住めるだろう、というがそうではない」と。あの日、あの時の記憶や意識は、何の解決策もなされないまま時が流れることで、深く心の中に根付き、いつまでも残り続けています。現に、「雨の日に、白いレインコートを着た交通整理の方を見ると、防護服(タイベックス)に見えてしまい動悸がする」「車のクラクションの音が、あの日なり続けた防災音に聞こえてしまう」「あの日の光景が、ふと頭を浮かんでくる」など、今もフラッシュバックのような症状に悩まされている人が大勢います。つまり、衣・食・住だけが整えば復興したとは言えません。それだけ、今回の原発事故が私たちにもたらした代

償はとても大きいということです。

◇東京電力福島第一原子力発電所で

溜まり続けている処理汚染水の海洋放出

昨年 4 月 13 日、政府は福島第一原発のタンクに溜まり続けている汚染水を、多核種除去装置 ALPS など一部放射性物質を除去し、2023 年春頃を目処に、海洋放出する基本方針を決定しました。この水には、複数の放射性物質がゼロではなく残っており、特に水の形で存在するトリチウムはまったく除去できていません。しかし、今年 4 月東京電力は、「関係者の理解なしには、いかなる処分もいたしません」と文書で確約しているにも関わらず、海洋放出に向けた事前工事を開始しました。福島県内では、海洋放出に反対する声が続いています。生業の場に放射性物質を流される漁業者も、全国組織の全漁連は今年 6 月にあらためて「海洋放出には絶対に断固反対であることは、いささかもかわることはない」という特別決議を出しています。たらちねラボでは、2015 年から継続的に行っている海洋調査の回数を年 2 回から 4 回に増やしました。さらに福島県沿岸 8 か所での海水のサンプリングも開始し、処理汚染水が放出される前の海水モニタリングを強化しています。万が一放出された場合の海の状況の変化にすぐに気づけるよう、いろいろな体制を整えています。



※海洋調査に参加の学生ボランティアさんたち。2022/8/24



11 年間、福島県内の農産物などの測定を行うことで放射性物質が減少していることも確認している今、処理汚染水の海洋放出は、自然界の力と人々の努力でもどりつつある環境を、あの日(2011 年 3 月 11 日)に巻き戻してしまうこととなります。福島県は、山・海・高原・湖と豊かな自然に恵まれている地域です。私には 2 人の娘がおり、長女は県外にいます。いわきに帰ってくると「今日も海の匂いがする」と、大きく深呼吸をします。その姿を見ていると、やはり「きれいな海を子どもたちに残してあげたい。子ども達の未来を守りたい」と、切に願います。福島県で生まれ育った子どもたちが、将来どこかでふるさと自慢を聞かれたとき、「きれいな海です!」と、胸を張って言えるような海であってほしいと思っています。母なる海の環境保全のため、私たちにできることは測定しかありませんが、これからも粛々と行っていきます。

◇「また、球美の里に行きたい!」

社会の関心が薄れつつある原発事故と、その状況に追い打ちをかけるような新型コロナウイルス感染拡大で、保養の縮小や開催が危ぶまれている状況となっています。「自然の中でのびのびと遊ぶ」という一見当たり前のことができなかった・できない子どもたちがたくさんいます。

震災当時、小学 2 年生(8 歳)だった次女は、外遊びも、夢中になっていたソフトテニスも、大好きなおじいちゃんおばあちゃんとの畑仕事も制限され、子どもなりにたくさんの事を我慢して過ごしていました。沖縄・球美の里に初めて参加したのは、震災から 4 年後の、小学 6 年生

(12 歳)。初めての飛行機、初めての久米島、そして私と 1 週間以上離れて過ごすことに、不安いっぱい当日まで参加するか悩んでいました。大袈裟かもしれませんが、人生最大の決断だったのではないのでしょうか。しかし、ブログに写っている娘の姿は満面の笑顔ばかり。私の心配をよそに、とても充実した日々を送れているようでした。

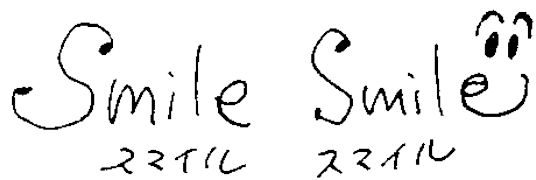
「また、球美の里に行きたい」

次女から、何度聞いたことだろう。何の制限もなく、のびのび生活ができる球美の里で過ごした記憶は、社会人になった娘の記憶に未だ鮮明に残っているようです。親元を離れ、1 週間以上過ごす生活は、小学生の子たちからすると、決死の覚悟で参加する子も多いのではないのでしょうか? しかし、その不安を払拭するほど、「また行きたい場所」へといつまでも子どもたちの記憶に残る沖縄・球美の里の存在は、福島、近隣地域の子どもの心身を和ませ、ひとときの休息ができるとても大切な場所となっています。これからも、1 人でも多くの子どもたちの憩いの場所となってほしいと思います。

◇私とたらちねの活動

私個人は、震災当時からたらちねに入所するまで、メディアや周りの情報に右往左往しながら娘たち 2 人を必死で守ってきました。しかし、2014 年たらちねに入所することで、私が 3 年間で得た放射能に対しての知識や情報は、間違っていたことを知り、無知だった自分を責め、娘たちに申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。そして、私たちと同じように後悔されているお母さんたちがたくさんいることも知りました。万が一、またどこかで同じような事故が起こってしまったとしても、「ママがいるから大丈夫よ!」と言えるお母さんたちが一人でも増えるよう、日々の記憶を記録に残し、次世代に伝えていきたいと思っています。

いわき放射能市民測定室たらちね
事務局長 木村 亜衣



ファミリー保養 in 久米島

〔2022 年 3 月～ 8 月〕

3 月から 8 月まで、11 回、13 家族 46 人のファミリー保養を実施しました。

悪天候により久米島到着が一日遅れた回がありましたが、梅雨明け以降、台風の影響もなく、天候にも恵まれ、笑顔いっぱいの保養となりました。



◇待ちに待った海遊び

ファミリー保養では、海遊びのプログラムを中心に実施しました。

海遊びは子どもたちに大人気のプログラムです。久米島の綺麗な海でプカプカ浮かんだり、シュノーケリングをしたり、砂浜で穴を掘ったり山を作ったり、干潮の潮だまりで磯の生き物を観察したり、シーグラス（海辺に打ち上げられたガラスのかげら）などを拾ったり、保養者さんそれぞれの楽しみ方で久米島の美しい海を満喫しています。保養者さんの中には「海遊びは久米島で！」と、久米島の海にしか入ったことがないお子さんもいます。これからも久米島の海に子どもたちの笑顔と歓声が広がりますように。

◇球美の里はボッチャが熱い

球美の里では室内プログラムとして、ボッチャを取り入れ楽しんでいます。

ボッチャとはイタリア語で「ボール」を意味し、ヨーロッパで考案されたパラリンピックの正式種目にあるスポーツです。シンプルで誰でもでき、かつゲームとしての戦略性もあり、家族で実施すると非常に盛り上がる競技です。先日は 5 歳の子とお母さんが白熱した戦いで延長戦の末、女の子が「〇〇ちゃん(自分の名前)ならできる！」と言いながら投げた最後の一投が逆転勝利を呼び込み、飛び上がって喜んでいました。

◇閑静なビーチでシーグラス拾い

ファミリー保養では、シーグラス拾いのプログラムを導入しています。イーフビーチや畳石は観光客が多く、あまり落ちていません。そこで、別のビーチに行ってシーグラスを拾います。20 分ぐらいビーチを探索してみると青、緑、白、茶色・・・たくさんのシーグラスを拾うことができます。



◇泥染め～足湯(?)もできるよ

以前からプログラムとして実施していた泥染めですが、ファミリー保養では人数が少ないので、輪ゴムや紐での絞りが完成した後、足湯のように赤土の泥穴に足をいれ、リラックスしているファミリーが増えています。子どもたちは泥穴に足を入れるのは初めての体験で、最初はこわごわ入れますが、一旦入れてしまうとあとは泥遊びが始まります。粒子の細かい赤土は泥パックのように足がつるつるになり、デトックス効果があると言われています。球美の里の保養に参加したときには、ぜひ家族で泥穴に足を入れ、ストレスを解放してみてはいかがでしょうか。



ファミリー保養参加者の声

- ◆帰ってからも球美の里の思い出話が尽きることはありません。どれも貴重な体験ばかりで、私たち親子にとって忘れられない5日間になりました。
- ◆震災から10年以上たち、食べ物や外遊びについての緊張感はほとんどないように思うが、やはり海や山での過ごし方については慎重になってしまう。子どもが久米島の海でうれしそうに遊ぶ姿を見ると、海の近くに住んでいながら海を避けて子育てしていることをとても残念に思う。何の心配もなく海で遊ばせられる保養がありがたいです。
- ◆放射能のデトックスだけでなく、テレビ、携帯からも離れることができ、球美の里の食事で身体の中からもデトックスできて、保養はこれからの子どもたちにとても必要だと思う。

支援者の声

- ◆ドルトムント独日協会代表のシュルターマン容子さんからのメッセージ:「楽しめた様子でうれしいです。みなさんには福島に帰ってからも楽しい思い出を胸に元気に過ごされますよう」



☆球美の里自然農園でオクラを収穫☆

球美の里では、車で15分程度のハテの浜が一望できる場所にある耕作放棄地をお借りして、昨年より球美の里自然農園の整備を始めました。これは、島内のボランティアさんの力を借りて、農薬などを使わないことにより、子どもたちも母親も安心して、土を触る、野菜を収穫するなどの自然体験ができることを目標にしています。今はまだ土作りの段階ですが、一部の畝にはオクラを植えています。先日ファミリー保養の保養者さんがオクラの収穫を初体験しました。採ったオクラをそのまま食べることができ、子どもたちから「オクラを生で初めて食べたけど、柔らかくてあまーい」との歓声が上がりました。オクラがこのように枝についているのも初めて知ったとの感動のコメントもいただきました。今後も、土作りをしながら、作付けの品種を増やし年間を通していろいろな体験ができるように活動を続けていきます。

☆キッチン担当より

皆さま、いつも球美の里を応援していただき感謝いたします。久米島事務局の影山（ヒロ）です。保養がないときは、施設や車両の管理メンテナンス、草刈りなどの用務を行っています。保養中は、プログラム同行やブログのアップも行いますが、主に食事やキッチン内の業務を担当しています。

食事の内容に関しては、少人数での保養者さん向けに、なるべく身体にやさしい食材を使用し、発酵食や酵素玄米、沖縄料理、福島のソウルフードを取り入れています。派手ではありませんが、心を込めて、久しぶりに実家に帰ったり、ばあちゃんの家に行ったりした時の、心が落ち着く懐かしいお袋や



ばあちゃん
の味のような
イメージの料理を
目指して日々
試行錯誤中。

*ある日の献立：豚汁、島豆腐のハンバーグ、
ナスの揚げびたし、酵素玄米

今まで、大人数の保養でキッチンを守ってこられた先輩方には及びませんが、“ていーあんだー”※1の味が出せるよう頑張っていきたいと思っています。子どもたちの「おいしい、おかわり！」の声が何よりの励みになります。

また、敷地内の畑で自然栽培のサトイモ(球美の里芋)を作っているのもう少し暑さがやわらいできたら子どもたちと収穫して、芋煮会※2ができるよう準備しています。

何故、震災から11年が経過しても保養を必要としている子どもたちがいるのか？しっかりと現実から目を背けることなく、これからも球美の里を守り、子どもたちに寄り添っていきたいと思っています。今後とも、お力添えの程宜しくお願い致します。

※1 ていーあんだー：沖縄のことばで“手の油”。
熟練のねえねえ達の手からは、愛のこもった
“ていーあんだー”がでています。

※2 芋煮会：福島の伝統行事で、外で芋煮汁などを食べたりします。

くまべこお泊り会



～くまべこ・子どもを守るママの会からのお便り～

私たちは、東電福島第一原発のある大熊町から会津若松市に避難してきました。町の帰還促進の動きにより、またバラバラになろうとしている大熊の子どもたち、ママたちの間に架け橋をかけたいと、くまべこ・子どもを守るママの会を立ち上げました。大熊町の「くま」と会津地方の郷土玩具「赤べこ」から名前をとっています。

球美の里からの支援による第1回お泊まり会は、3月20日から21日までの1泊2日。福島県内では比較的低線量の南会津郡只見町にある【森林の分校ふざわ】で、約10人が参加しました。1m以上残る雪に子どもたちは大喜び。そりやスノーチューブを楽しみ、放射能についてオンライン講演会で学び、うどんやそば打ちも体験して、仲良く心の保養をすることができました。

第2回は8月19日から21日までの2泊3日で南会津町のペンションで実施し、藍染体験でハンカチやバンダナを作ったり、川遊び、そば打ち、すいか割りと、目いっぱい夏を楽しみました。

球美の里からは宿泊費、活動費の援助をいただき、厚くお礼申し上げます。

くまべこ・子どもを守るママの会
共同代表 馬場由佳子・箭内律子



Information

★球美の里の今後について★

2022年6月4日、沖縄・球美の里 第10回定期総会を開催しました。2021年度の事業報告・決算報告などを決議し、無事終了しました。

※昨年度の会計報告は、球美の里のウェブサイト「沖縄・球美の里について」→「収支報告」をご覧ください。

昨年はコロナの影響により、「ウェブ会議」のみで行いましたが、今年は、新宿区戸塚地域センターの集会室に会員の皆さまも参集されて、久しぶりに対面での総会（zoom参加を含む）を実施することができました。

総会では、球美の里の今後の体制について、話し合いが行われました。

- ・コロナ禍の影響が続いていくことが予想され、大勢での移動が今後もしばらくは見込めない。
- ・来年以降も子どもたちだけの保養は難しい。
- ・さまざまなことに配慮しながら少人数保養を進めていくことになる。
- ・保養の必要性は依然あるが、事業縮小の方向が考えられる。
- ・世界中でいろいろな問題が起きており、今後、球美の里に寄せられる寄付金が漸減していくこと

が予想されるため、球美の里の運営形態を見直し、できる限りの経費削減を図る必要がある。

などの議論がありました。

その結果、今年度中（2023年3月末）をめどに、「球美の里での保養」業務を、他の信頼できる団体に移譲し、認定NPO法人としての球美の里（組織）は解散することが最善との判断に至りました。現在、そのための検討や調整をしているところです。

保養を希望される方、そして、ご支援のみなさまには、ご不便をおかけすることがないように配慮しながら、調整を進めてまいります。詳細が決まり次第、ニュースレターやホームページでご案内させていただきます。

今回も振込用紙を一律に同封させていただきました。現在小規模での保養中とは言え、保養費用および施設管理などに費用はかかります。ご支援いただけましたら幸いです。

球美の里の資産や寄付金などは、球美の里の解散時にすべて新しい団体に移譲し、球美の里での保養はこれまで通り継続していただきます。

どうぞご理解のほど、よろしくお願いいたします。

★ご寄付とご寄贈のお礼★

◎ご寄付いただいた皆さま（団体からのご寄付・2022/1/16～8/31 順不同・敬称略）

..... *

タローベーカー、認定NPO法人 ジャパンカインドネス協会（プロゴルファー上原彩子 ゆび募金活動より）、沖縄ガス圧接、キッチン5、彩雲リーディング、未来の福島こども基金、子どもの未来を考えるお店「せいのお」、石井竜也 グラウンドエンジェルプロジェクト、ギター弦の会、うむい宮古島、ひばりが丘グレイス教会、フライブルク市民大学、音楽の森プロジェクト、アウレオ、シェア・ワールド、ドルトムント独日協会、我楽多、クール・グルヌイエット

※紙面の都合により寄付金をいただいた団体名のみ記載しています。多くの個人の方からもご寄付をいただいています。感謝申し上げます。



◎楽器や備品を寄贈いただきました

いつも素敵な演奏で保養者さんを楽しませてくれる、久米島の民謡グループ『なんくるさんしん』さんより、パーランクー（太鼓の一種）、子ども用大太鼓、三線をご寄贈いただきました。また、久米島在住のM様よりキーボードのご寄贈がありました。ファミリーサポートでピラミッド利用時にオルガンの調子が悪いことに気づき、ご寄贈くださいました。大切な楽器を譲り受けることは、家宝をいただくようなことであると認識し、大切に使用させていただきます。

※ウィッシュリスト公開後、多くの品物を皆さまより提供していただいています。お名前を掲載できませんが、ご了承ください。Amazon のウィッシュリストもときどき更新しております。のぞいてみてください。